

10:12 主はモーセに仰せられた。「あなたの手をエジプトの地のの上に差し伸ばせ。いなごの大群がエジプトの地を襲い、その国のあらゆる草木、雹の残したすべてのものを食い尽くすようにせよ。」

10:13 モーセはエジプトの地のの上に杖を差し伸ばした。主は終日終夜その地のの上に東風を吹かせた。朝になると東風がいなごの大群を運んで来た。

10:14 いなごの大群はエジプト全土を襲い、エジプト全域にとどまった。実におびただしく、こんないなごの大群は、前にもなかったし、このあとにもないであろう。

10:15 それらは全地の面をおおったので、地は暗くなった。それらは、地の草木も、雹を免れた木の実も、ことごとく食い尽くした。エジプト全土にわたって、緑色は木にも野の草にも少しも残らなかった。

10:16 パロは急いでモーセとアロンを呼び出して言った。「私は、おまえたちの神、主とおまえたちに対して罪を犯した。

10:17 どうか今、もう一度だけ、私の罪を赦してくれ。おまえたちの神、主に願って、主が私から、ただこの死を取り除くようにしてくれ。」

10:18 彼はパロのところから出て、主に祈った。

10:19 すると、主はきわめて強い西の風に変えられた。風はいなごを吹き上げ、葦の海に追いやった。エジプト全域に、一匹のいなごも残らなかった。

10:20 しかし主がパロの心をかたくなにされたので、彼はイスラエル人を行かせなかった。

現代でもいなごの大群は大地のあらゆるものを食いつくし、飢饉をもたらします。緑色が全くななくなってしまうことが書かれています。そのようないなごを去らせるのも神様で、自然のように見えますが、神様が風を起こされていなごをさらせました。

一度はイスラエルを去らせるように認めたパロでしたが、難が去るとここでもまた強情になってしまいました。彼の心が神の厄難をこわがっているだけであり、心から神を敬っているのではないことが分かります。そのような人はどんなことが何度続いても変わらないのです。

これは人の強情な姿であり、神から離れて自己中心になって人の姿です。実は私たちも神様の聖霊によらなければ、このパロと同じだったのです。神様に感謝しつつ、自分自身の強情さをも認めて謙遜になりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

